

年末手当・賞与交渉妥結!

妥結内容(要旨) 【JR四国】

- ◆組合員の年末手当
基準内賃金の1.43カ月分
- ◆エキスパート組合員の年末一時金
基本賃金及び高年齢調整手当の
合計額の1.83カ月分
特例：基礎額に乗じる係数0.6
- ◆準組合員(契約社員)の年末一時金
パートナース社員(月給・日給適用者)
四国地区(120日以上)
104,000円
列車乗務員(120日以上)
118,000円
- ◆支払日 2022年12月7日(水)

妥結内容(要旨) 【ジェイアール四国バス】

- ◆組合員の年末賞与
基本給額の0.95カ月分
- ◆準組合員(再雇用(月給))
契約基本賃金×0.95カ月分
(シニアA、120日以上)
- ◆準組合員(契約(月給))
運転係(120日以上) 141,000円
デスク・営業係等(120日以上)
108,000円
- ◆準組合員(再雇用・契約(時給))
調査期間内の労働時間に応じて
55,000~97,000円
- ◆支払日 2022年12月7日(水)

JR四国

「安全・安定・安心輸送の確立」「収入確保」に取り組んだ組合員の頑張りを最大限評価!

JR四国との年末手当交渉は、11月14日に第2回目の団体交渉を開き、前回の交渉で行った組合からの要求の主旨説明に對

する会社側の考え方が示された。組合はこれに對し、「長引くコロナ禍の影響に加え、資源価格高騰の影響で会社が厳しい経営環境に置かれていることは組合員も認識している。しかし、物価の高騰は家計を直撃し、組合員も極めて厳しい状況にある。第7波の影響も受けたが、着実にご利用は増えてきており、全国旅

行支援も開始された。直近の収入動向は前年度から大きく改善しており、この間奮闘し続けてきた組合員の頑張りを評価すべき」と述べ、コロナ前と変わらず努力を続ける組合員に報い、モチベーションの維持・高揚につながる回答を示すよう会社に強く求めた。

資する結果を求め続けた結果、11月24日に開催した第3回目の交渉において、会社側から基準内賃金の1.43カ月という回答を引き出した。

組合は、組合員の奮闘を最大限評価した会社側の精一杯の回答であると判断し妥結した。

(詳しくは、JR四国労働組合ニュースNo.12、13を参照)

第18回四国の鉄道を考える国会議員連絡会開催



労使双方の意見に真剣に耳を傾ける「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」役員

JR四国労働組合は、11月17日(木)に衆議院第一議員会館内会議室において、第18回「四国の鉄道を考える国会議員連絡会」を開催した。3年ぶりとなった本連絡会には、小川淳也議員、玉木雄一郎議員、仁木博文議員をはじめ、JR四国から西牧世博代表取締役社長、四之宮和幸代表取締役専務、総合企画本部長、JR連合から政所大祐事務局長、森安祐貴産業政策局長、JR四国労働組合より大谷清執行委

員長ら総勢15名が出席。冒頭、事務局長に玉木雄一郎議員を、会長に小川淳也議員を選出。小川会長から「コロナ禍の痛みもあるが、JR四国の課題は構造問題に起因しており、抜本的対策の必要性は理解している。労使双方の取り組みをお互いに支え、力を合わせて取り組んでいく」と挨拶を受け、大谷執行委員長が「コロナ禍でJR産業は大きな打撃を受けた。収入はコロナ前の7割

に満たないものの回復の動きを見せており、明るい光が見えてきた。今後も四国の公共交通を守るため、労使ともに安全第一で取り組んでいく。一層の経営回復に向けては政策課題の解決が必要であり、お力添えをお願いしたい」と述べ、JR連合の支援を呼び取り、経営自立に向けて取り組んでいく」と挨拶した。

その後、JR連合の取組、JR四国の現状と経営課題について説明がなされた。このうち、「コロナ禍の影響」「運賃改定」「国や自治体と連携した取り組み」「通学にまつわる

- 会長 小川 淳也 (衆・香川1区)
事務局長 玉木 雄一郎 (衆・香川2区)
幹事 仁木 博文 (衆・徳島1区)
白石 洋一 (衆・愛媛3区)
永江 孝子 (参・愛媛)

ジェイアール四国バス

前年や夏季の支給水準を超える「賞与」を確保!

ジェイアール四国バスとの年末賞与交渉は、11月24日に第2回目の団体交渉を開き、ジェイアール四国バスを取り巻く状況は未だコロナ禍による影響下にあり、累積した赤字と資金減に加え、収入水準が計画を下回ったままでも推移している中、これまでの「安全・安心輸送」の継続とともに、今後の取組には労使一体で臨んでいかなければならないことを踏まえ、事業計画に掲げた4年ぶりの黒字決算を目指す上で、前年や夏季の支給水準を超える「賞与」が支払われることにより組合員のモチベーションの維持・高揚につながることを粘り強く訴え続けた結果、会社より基本給額の0.95カ月という回答を

引き出した。組合は、コロナ禍によって会社が非常に大きなダメージを受け、中間決算で計上した2億円の赤字だけでなく、これまで累積した赤字額は20億円にも上っており、今年度内に債務超過となる可能性もあるが、3年ぶりの「賞与」となった夏季賞与に続き、今回の年末賞与も「賞与」として回答があったことは、これまでの組合員の「安全・安心輸送」の継続、各種会社施策への協力が評価されたものと受け止め、会社の精一杯の回答と判断し妥結した。



分会大会、全日程終了!

JR四国労働組合を構成する39の分会は、9月22日の多度津運転区分会を皮切りに今年度の分会大会を開催。12月7日までに全ての分会大会の日程を終了した。

各分会大会では、執行部より2021年度の一般経過報告、決算報告が行われ、その後、2022年度活動方針(案)及び予算(案)が提起された。出席した代表議員からは「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働条件の改善」に関する質疑や年末手当等交渉の進捗、第41回定期大会で提起した「私たちが考える『持続可能なJR四国グループをつくる人財確保』(素案)」、交通連携のこくみん共済coopへの契約移転に関する質疑が行われ、執行部からの答弁の後、各議案は満場一致で採択。最後に各分会長による力強い団結ガランパローで締めくくった。

分会は組合活動の原点であり、組合員同士のコミュニケーションを強化し、連帯感を高めることが組織の強化、拡大につながっていく。各分会役員には、分会大会において決定した活動方針に沿って、世話役活動を充実させるとともに、より良い職場づくりに取り組むことを要請する。

「賃金実態調査」

ご協力に感謝!

JR連合では「中期労働政策ビジョン(2019~2023)」で設定した賃金目標や世間水準等との比較・検証を行い、2023年春季生活闘争方針の策定をはじめとした労働政策議論に反映すべく、賃金実態調査を実施。JR四国労働組合では次の結果となった。組合員のご協力に厚く御礼申し上げます。

- ◆第29回賃金実態調査 1,643枚回収!
- ◆第9回JRバス関係労働者賃金・労働条件実態調査 114枚回収!



ユニオンスクール「ユースコース」を 愛媛・徳島・高知で開催!!



愛媛地区 松山駅3階会議室にて

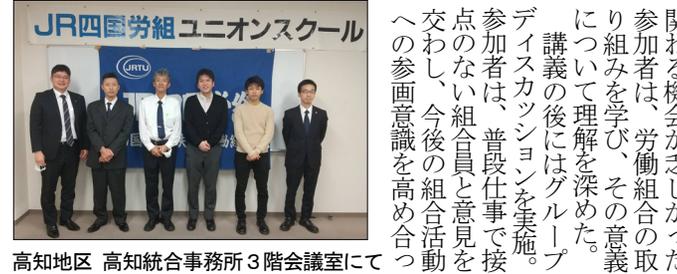
本部は、入社10年以内の組合員を対象としたユニオンスクール「ユースコース」を各地で開催した。

例年は四国各地より参加者が会場に参集していたが、勤務調整や移動に伴う負担軽減とともにJR四国労組への連帯及び所属する基本組織との連携をより高めるため、各県において開催する手法に変更。12月3日(土)の愛媛地区会場には8名、同4日(日)の高知地区会場には4名、同10日(土)の徳島地区会場には7名が参加し、各支部からは教育担当者も出席した。冒頭、主催者を代表して中野教育部長及び各支部の教育担当者が挨拶。その後「労働組合の基本」「組織の強化・拡大の取り組み」「安全・安定輸送確立の取り組み」「労使間ルールの私たちが考える『持続可能なJR四国グループをつくる人財確保』(素案)」について講義を行った。

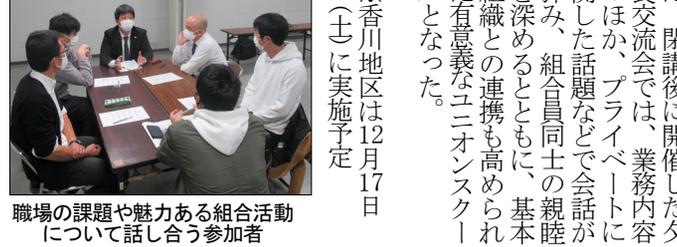
既に職場の中で中心的な役割を担いつつある一方、これまで組合活動に関わる機会が乏しかった参加者は、労働組合の取組みを学び、その意義について理解を深めた。講義の後にはグループディスカッションを実施。参加者は、普段仕事で接点のない組合員と意見を交わし、今後の組合活動への参画意識を高め合った。

閉講後に開催した夕食交流会では、業務内容のほか、プライベートに関する話題などで会話が弾み、組合員同士の親睦を深めるとともに、基本組織との連携も高められた有意義なユニオンスクールとなった。

※香川地区は12月17日(土)に実施予定



高知地区 高知統合事務所3階会議室にて



職場の課題や魅力ある組合活動について話し合う参加者



徳島地区 徳島駅前市場1階会議室にて



JR四国連合の明るい未来に向かって大谷会長による団結ガンパロー

JR四国グループ労働組合連合会 「第28回定期大会」開催!

「厳しい時こそ、労働組合の意義や価値を示すため、様々な社会環境変化に柔軟に対応しながら、安全の取り組みを第一、安全とした活動方針を第一とし、力強く運動を展開していき」と述べた。

大会には来賓としてJR連合政務所事務局長、鎗光労働政策局長のほか、JR四国やジェイアール四国バス、四国キヨスク、JR四国ホテルズ、四国開発建設、ジェイアール四国メンテナンス、JR徳島駅ビル開発からご臨席いただき、労使協働してグループの発展に取り組む熱意を共有した。

JR四国グループ労働組合連合会は、12月9日(金)、ホテルアネシス瀬戸大橋において、第28回定期大会を開催した。冒頭、JR四国連合を代表して挨拶に立った大谷会長は、各単組の日々の取り組みに謝辞を述べるとともに、3年が経とうとするコロナ禍もようやく社会経済活動を取り戻す段階に差し掛かってきており、今こそ労使一体となって課題解決に向けて取り組む必要があると訴え、「安全の取り組み」「組織の強化」「2023春闘に向けたグループ全体の労働条件向上」についてJR四国連合として取り組む想いを表明。



各単組の立場から人財の確保について発言する代議員3名



砂田議長を再任し新体制スタート

四国交通労働協を代表して挨拶に立った砂田議長は、「一年間の取り組みと活動への協力について謝辞を述べるとともに、コロナ禍で大きく影響を受けた人流と物流に回復の兆しがある一方、物価高騰や円安の影響で可処分所得は目減りしている現状に言及、働く者の生活を守るため、現場の声を政治の力を使って届ける必要性を訴えた後、「どの産業も要員不足という

問題を抱えており、安全対策を講じながらも、賃金や福利厚生への投資を行い、離職させない取り組みを進める必要がある。結束を高めて取り組んでいこう」と述べた。

本定期総会には多数の来賓が出席。中央交通労働協の住野議長は「人手不足の問題は、交通運輸産業に顕著に表れている。働き手が希望を持っていない状況であってはならず、課題解決に向け、政治の力を活用して取り組むとともに、ワン・フォア・ワンの精神で、交通労働

その後、事務局より、2022年度活動経過及び決算報告・会計監査報告、2023年度活動方針(案)、予算(案)の提案を受け議論した後、全ての議案が満場一致で採択された。続いて行われた役員改選では、砂田篤志議長(私鉄総連)、武智義治事務局長(JR連合)ら三役を再任。大会宣言案が提起され、これを承認した後、砂田議長の「団結ガンパロー」で締めくくった。

第5回本部執行委員会開催

11月27日(日) 15時より、ホテルアネシス瀬戸大橋にて第5回本部執行委員会を開催した。

【経過報告】

- 組織の強化・拡大(経協)
- 中間決算(JR四国・ジェイアール四国バス)(団交)
- 2022年度年末手当・賞与(JR四国・ジェ

部教育担当者が挨拶。その後「労働組合の基本」「組織の強化・拡大の取り組み」「安全・安定輸送確立の取り組み」「労使間ルールの私たちが考える『持続可能なJR四国グループをつくる人財確保』(素案)」について講義を行った。

既に職場の中で中心的な役割を担いつつある一方、これまで組合活動に関わる機会が乏しかった参加者は、労働組合の取組みを学び、その意義について理解を深めた。講義の後にはグループディスカッションを実施。参加者は、普段仕事で接点のない組合員と意見を交わし、今後の組合活動への参画意識を高め合った。

業
交通共済・こくみん共済coopとの意見交換会

(JR連合)

- 女性役員意見交換会、2022連合中央女性集会
- 産業政策委員会
- エリア連合代表者会議
- 地方議員団連絡会総会
- 21世紀の鉄道を考える議員フォーラム総会

【議事】

- 2023統一地方自治

体選挙における推薦候補者の承認について

- 2022年度年末手当・年末賞与の妥結承認について
- ダイヤ改正実施に伴う経営協議会の付議事項について
- JR四国労組「第36回定期本部委員会」の開催について
- 交通共済のこくみん共済coopへの契約移転に向けた取り組みについて
- 当面するスケジュール



今後の運動について協議

⑦その他

四国交通労働協第34回定期総会開催!

12月5日(月)、高知県高知市「三翠園」において、「四国交通労働協第34回定期総会」が開催された。

議事では、JR四国連合運動の強化や2023春闘に向けての活動方針等が提起され、3名の代議員が離職問題や雇用確保について発言し、執行部による答弁の後、方針等を満場一致で採択。新役員及び大会宣言を採択し、最後に大谷会長の力強い団結ガンパローで大会を締めくくった。

合員はお互いに声を掛け合いながら楽しくプレー。優勝決定戦では高知支部が自動車支部に競り勝ち、見事記念すべき第1回大会の優勝を飾った。

JR四国労組では、サークル活動を通じて親睦と団結の素晴らしさを認識できるように、引き続き取り組んでいく。

問題を抱えており、安全対策を講じながらも、賃金や福利厚生への投資を行い、離職させない取り組みを進める必要がある。結束を高めて取り組んでいこう」と述べた。

本定期総会には多数の来賓が出席。中央交通労働協の住野議長は「人手不足の問題は、交通運輸産業に顕著に表れている。働き手が希望を持っていない状況であってはならず、課題解決に向け、政治の力を活用して取り組むとともに、ワン・フォア・ワンの精神で、交通労働

その後、事務局より、2022年度活動経過及び決算報告・会計監査報告、2023年度活動方針(案)、予算(案)の提案を受け議論した後、全ての議案が満場一致で採択された。続いて行われた役員改選では、砂田篤志議長(私鉄総連)、武智義治事務局長(JR連合)ら三役を再任。大会宣言案が提起され、これを承認した後、砂田議長の「団結ガンパロー」で締めくくった。

第1回
ドッジビー大会
開催!

記念すべき第1回大会の優勝は高知支部!



100名を超える組合員とその家族が高松に集合!



初代王者は高知支部!

「第36回定期本部委員会」の開催について

- 日時
2023年2月6日(月) 13時より17時まで
- 場所
「ホテルアネシス瀬戸大橋」
- 議題
(1) 定期大会以降の経過について
(2) 2023春季生活闘争方針をはじめとする当面の活動方針(案)について
(3) その他

JR四国労組 LINE公式アカウント
友だち募集中